

おしえて！下水道

～皆さんの生活を支える三浦市公共下水道についてご案内～

公共下水道は、皆様の健康や安全・安心な生活を維持するために、24時間365日稼働している重要な公共インフラです。私たちは、これら下水道関連施設を長く、賢く使い次世代へと確実に引き継ぐため様々な取組を実施しております。皆様に、これらの取組を知って頂くため、公共下水道事業の経営状況などをお伝えしていきます。

三浦市の公共下水道について

下水道を整備する目的には、雨水の早期排水や公共水域を清廉に保つという2つの側面があります。三浦市の公共下水道事業は、京浜急行電鉄の三浦海岸駅、三崎口駅の開業に端を発する沿線開発や人口増に伴う汚水処理の要請を受け、東部処理区については、平成3年に事業着手し、平成10年に一部施設の運転を開始しました。



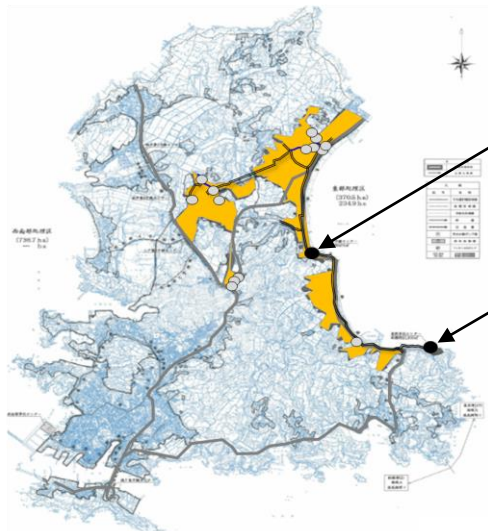
三浦市人口 42,764人
うち、処理区域内人口14,897人
(34.8%)
※人口は「住民基本台帳」に基づき算出



カラーマンホール
(南下浦中学校前)



東部浄化センター
(南下浦町金田地先)

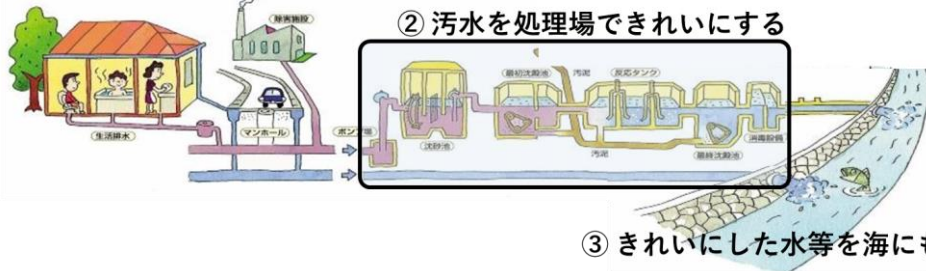


公共下水道事業(東部処理区域)の概要

汚水の旅 (各家庭から東京湾まで)

皆さんが生活する中で、主に台所、お風呂、トイレから発生した汚水は、区域内に張り巡らされた下水道管を通じて、東部浄化センターへと流れていきます。センター内部では、これら汚水は微生物の力を借りてきれいになり、環境への影響が十分に和らげられた状態となってから、東京湾へと放流されます。

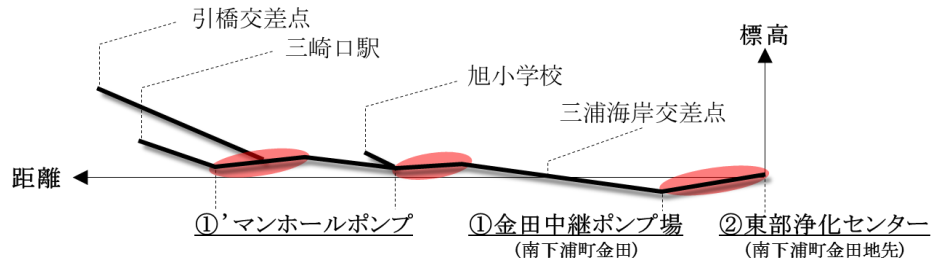
- ① 汚水が発生
- ①' 下水管等で汚水を集める
- ①' 一部は電力を使って集める



意外と長い下水道

日本全国の下水道をつなげると、どのくらいの長さになるのか、考えたことはあるでしょうか。実は、約47万km以上もあり、これは地球から月まで(約38万km)届くような長さとなります。

令和2年度現在、三浦市東部処理区域内の下水道汚水管は、約58kmあります。人間の体でいうところの静脈にあたる下水道を正しく機能させることは、事業を運営する上で、最も基本的かつ重要なことです。このため、下水道管の定期的な点検や損傷状況に応じた長寿命化対策を実施していくことが非常に重要です。



下水道関連施設の距離と標高のイメージ